

# しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！



## 粕屋地区交通安全協会志免支部 交通安全指導員

39

町中を思いやり運  
転の車にしたい！

町の交通安全を見届けて

交通安全指導員は町から委嘱を受け、主に交通安全に関する啓発活動やボランティア活動を行っています。また、志免町では粕屋地区交通安全協会志免支部として交通安全協会の活動にも協力しています。

今回は、志免支部長の中嶽誠一郎なかたけ せいいちろうさんと生活安全課にお話しを伺いました。



### 「志免町の交通事故ゼロ」を 目指して活動中！

現在粕屋地区交通安全協会志免支部では、「志免町の交通事故ゼロ」を目指して粕屋警察署・粕屋地区交通安全協会と連携を密にし、交通安全活動に丸となって取り組んでいます。

志免町（以下、町）で交通安全指導員（以下、指導員）の活動が開始された経緯ですが、1983（昭和58）年に当時、別府地区で交通事故が多く起きていたことがきっかけで、有志が集まり活動を始めたとのことです。



### 多岐にわたる 指導員の現在の活動

日常の活動としては、児童や生徒の登下校時に交差点など交通量の多い通学路で保護誘導をしているほか、

- ・年4回の交通安全県民運動（春・夏・秋・年末）
- ・交通安全教室（町内各小学校の1年生・4年生）
- ・飲酒運転撲滅キャンペーン（町内3ヶ所で実施）
- ・粕屋地区交通安全大会などの大会への参加

・交通安全指導員研修会

・町内のイベントや、各種団体から交通誘導の依頼など活動は多岐にわたっています。さらに指導員全員が集まる理事会を年4回実施しており、町内の交通安全について意見交換をしています。また、生活安全課担当職員と直近で実施される大会の確認をしたり、各種団体から依頼を受けたイベント等の交通誘導の配置確認をしています。



### 町民運転者の全員を「思いやりの あるやさしい運転」にしたい！

町内の県道68号線や幹線道路で、最高速度40km/h制限の箇所を60～70km/hのスピードで飛ばしていく車が多いように思います。これは博多方面や宇美方面に抜ける道があるため、急いでいる車も



▲取材に応じていただいた  
支部長の中嶽さん

多く、それだけ荒っぽい運転が多いためではないか  
と思います。またあおり運転をする車も依然として  
多いように思います。

イベントで交通誘導をしている時に遭遇するの  
ですが、運転マナーを守らない運転者が本当に多い  
です。最近ではこちらの指示に従わないどころか、無  
視されます。「危ないですから、構内は徐行してく  
ださい。」と案内したそばから猛スピードを出して  
去っていきます。状況によっては命に関わるのだと  
いうことが、なかなか伝わりません。「思いやりの  
やさしい運転をしましょう」という啓発の活動が必  
要なのだ、実感しています。交通法規や交通法令  
を守るのは当たり前ですが、車を運転する時には常  
に「思いやりのあるやさしい運転」を心がけてほし  
いと思います。

例えば、信号機の無いせまい交差点やせまい車道  
ですれ違う時は、自らが先に動いて、できるだけ左  
側に寄せて対向車に道を譲る。逆に、対向車に道を  
譲ってもらった場合には、対向車には必ずお辞儀を  
して敬意を表す。こういった些細なことを実践する  
だけでも、「志免町の交通事故ゼロ」に繋がるのだ  
と思っています。

それから運転者が運転マナーについて、学ぶ機会  
は、運転免許を取得する際と更新時くらいしかあり  
ません。運転  
マナーの基本  
について、  
もっと教える  
場をつくって  
ほしいと思い  
ます。



▲交通安全県民運動のようす

## 指導員を今後 増やしていくために

指導員の活動は、今後ますます重要になっていく  
と思います。ところが町内の指導員は、定員30名  
に対して現在16名（女性は1名！）しかいません。

交通安全運動などイベントがある度に、まちの広  
報誌やホームページ、LINEなどの町の広報媒体を利用  
して、指導員の募集を呼びかけています。詳しく  
は生活安全課にお問い合わせいただければ、ご案内  
いたしますので、お気軽にご連絡ください。

## 指導員としての やりがい

指導員のやりがいについて支部長の中嶽さんは、  
『指導員として交通誘導しているときに、青信号に  
なるまできちんと待って渡っている子どもをみる  
と、「よくやっているね」と声をかけます。すると  
子どももニッコリと笑ってくれる。こういったこと  
が指導員としての喜びですし、やりがいの原動力に  
もなっています。』と語っていただきました。活動  
の頻度については、『毎日活動しなくても大丈夫  
です。皆さんの活動できる範囲で本当に構いませ  
ん。今後の募集については、公民館など人が集う  
場所にポスターを貼らせてもらえるよう検討して  
おり、人と人との繋がりを通じて指導員が増えて  
いくといいなと思っています。』

そうした繋が  
りから指導員が  
増えて、「思い  
やりのあるやさ  
しい運転」を実  
践する運転者も  
増えていくとい  
いですね。



▲子どもたちの笑顔が、指導員のやりがい  
にも繋がっている

## 取材を終えて

町の交通安全に関わりながら、支部長の中嶽さん  
はじめ指導員みなさん自身のやりがいにも繋がっ  
ていることが、取材を通じて伝わってきました。自身  
の生活スタイルに合った活動でもよいことが周知で  
きて、指導員が今後増えるといいですね。

